

令和2年度 バルツァ・ゴードル事業報告

看護療育部

【看護療育統括】

【総括】

令和2年度は、年頭よりコロナウイルス騒動の始まりで一年中、コロナウイルスにおける不安と恐怖、それに伴う感染対策、日に日に変化する感染状況の中、1階病棟と2階病棟との病棟分離、面会制限(中止)、ショート利用制限などの現状のなか、感染備品の品不足もあり慌ただしく過ごすことが多く、スタッフも不安と恐怖、例にもれず使用する保育園にて使用を嫌がる風評被害も受け、精神的にも不安定な状況もあった。

研修会、講演会など集合教育の中止(密を避ける)それに伴って利用者の3大行事の縮小化、個別レクの中止など利用者様だけでなく携わるスタッフのモチベーションの低下も避けられない現実となって行った。頼みの綱の一本であった外国人実習生の話しも立ち消え、療育スタッフの人員低迷のままの一年であった。しかし、退職者も殆どなく利用者様の為に前向きに看護や療育業務に勤しむ姿があった。

常勤換算数も余裕はなかったが、不安もなく過ごせた一年となった。

そんな状況の中、業務へスタッフ全員尽力を尽くし大火なく実践できたと考える。

利用者数に関しては、毎月の入所判定会議にて常に前向きで利用者数の確保のため策を立てている。

令和2年度看護療育部目標

- 1、利用者を尊厳、尊重した質の高い看護・療育の支援の充実。
- 2、安全で安楽な看護・療育環境の整備の実施。
- 3、専門職としてプロ意識を持った知識・技術の修得。
- 4、コスト意識を持った施設運営へ参加する。

【外来】

令和2年度外来看護療育目標(評価)

1、外来利用者及び家族への配慮

・接遇・言葉使い・お待たせしない

2、安全で安楽な看護・療育環境の整備の実施。

・診察室及び利用者使用物品は常に清潔を保持し、心地よい環境での診察の実施。

3、専門職としてプロ意識を持った知識・技術の修得。

・利用者・ご家族様の今後起こるであろう状況を察知し事前に準備・対応にあたる。

4、コスト意識を持った施設運営へ参加する。

・無理・むら・無駄のないサービスの提供

(評価)

・令和2年における外来に関する状況も、コロナに始まりコロナ禍の中での一年となった。利用者様への面会制限、ショート利用制限、などの状況の中例にもれずコロナ感染対応に追われた。コロナ襲来に対する外来対応に明け暮れ、感染に要するマスクや手袋にエプロンなどの品薄状況に陥り備品整理に追われた。

結果的にコロナウイルスの施設内侵入を避けられたことは一番の成果と考えられる。

【1 病棟】

1. 利用者を尊重した質の高い看護・療育の支援を行う

1) サービス支援計画に沿った支援を実施する。

日常生活支援と共に、個別支援計画に沿った活動や関わりについては、受け持ち中心に実施は出来つつある。しかし、実施した内容の記録による評価や、病棟全体の業務内容としての反映が不十分で、受け持ち以外の介入や継続性が課題である。

2) 利用者が行事や日々療育活動に参加できるように体調管理や企画運営を看護療育が協力し実施する

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として病棟分離を行っているため、例年と異なり、行事を全体で行う形式はできなかった。しかし、病棟単位で開催方法を工夫しながら利用者全員が参加する事が出来た。園外活動も当初の計画を変更し、新型コロナ感染対策に配慮し、全員が参加する事が出来た。今後の感染情勢によって、次年度の計画を作成していく必要がある

3) ケースカンファレンスで看護計画を検討し、日々の看護療育活動に反映できる

ケースカンファレンスを計画的に実施する事は出来なかったが、変更が必要な内容についてはカンファレンスを適宜行ってケアに反映させることができた。定期的なカンファレンスを実施できない課題も見えてきたので業務整理を行い検討する。

今年度、看護計画の様式の統一を行い、年度初めに見直し修正ができており計画への反映もできつつある。今後適時の評価修正、経過記録への反映が課題である。

2. 安全な看護療育環境の整備を行う

1) インシデントの内容でレベル3に関する内容は、タイムリーにケースカンファレンスを実施出来る

レベル3のインシデントは2件、レベル3のインシデントに関してはタイムリーにカンファレンスが実施できた。レベル3以外の、早急な対応が必要なインシデントに関しては、ケースカンファレンスの実施ができていない。しかし、対策はできるが、分析を通して手順や方法の見直しまでは出来ておらず、同じインシデントが繰り返す事例もあるのでカンファレンスが次のインシデント防止に活かされていない。

2) 各委員会担当者が委員会に出席し、内容を病棟スタッフへ伝達することで情報の共有化ができ、行動することができる

委員の委員会への参加がコロナ感染対策の影響で制限があり参加機会は少なかった。

委員会の内容は会議録として提示され、連絡簿を通じて情報の共有化は行うことができた。

3) 連絡簿の伝達事項の情報確認のサインが2週間以内にできる

連絡ノートのサイン実施に関しては声かけなどを通じて実施できるようにはなってきたが、決まったスタッフのサイン遅れが目立っている。サインはあるが、知らなかったなどの発言もある。連絡事項周知し各自の確認後の行動変容、継続性について検討する必要がある。

4) 利用者の現状を踏まえた業務内容やタイムテーブルの見直し

タイムスケジュール、業務方法の変更など見直しながら変更を実施している。リーダー性やチーム制を導入して、患者ケアの責任は明確になりつつあるが、役割の明確化や業務内容の明確化が出来ておらず、戸惑う内容も多い。今後も継続して現状に沿った業務内容、方法を検討する必要がある。

3. 専門職として知識技術の向上を図る

1) カンファレンスにおけるリーダーシップが発揮できるリーダーの育成

病棟相談会における司会進行、準備など役割と内容を明確にすることでスタッフが実施できた。今後、受け持ち患者のケアなど、スタッフが自ら発信できるリーダーシップ・メンバーシップの育成に向けた取り組みが必要である。

2) スタッフ各自の成長のため希望する研修へ参加し学びを深める

コロナ感染の影響で集合研修の中止が多かったが、オンライン研修などを活用して研修などの自己研鑽の機会が出来始めている。

3) 基本的看護技術や援助の統一化としての再学習を企画実施

(吸引、吸入、注入、呼吸器の取り扱い)

看護技術に関する研修を実施する事はできなかったが、コロナ対策において感染対応に関する研修やカンファレンスを実施することができた。

4. コスト意識を持ち施設運営への参画を行う

1) 病床数 30 床の稼働

コロナ感染によりショートステイの稼働など、昨年より減少した。

感染対策を実施しつつ、病床の稼働やショートステイの受け入れなど、施設全体で協議し検討しながら、今後の病床運営と業務を検討が必要である。

2) SPD 物品の定数の見直しとコスト意識を持ち見直しを行う

使用実績や医療ケアの変化に合わせた見直しを実施できた。

3) 病棟内の医療機器や看護備品の台帳作成

感染対応における物品の増加などもあり、改めて作成していく。

療育活動

1. 個別支援計画に沿った活動として、担当者が 2・3 カ月に 1 回と少ないながらも、個別の関りを実施する事が出来た。その中で、個々の能力を少しでも引き出し日々の支援に活かして行きたいと思いが、訓練科の協力を得て学ぶ行動へ発展した。

2. 感染対策として、面会ができない中、ライン電話、リモート面会等、今までに無かった内容の対応が求められる中、スムーズに対応できていた。

3. 病棟分離や移動支援で外出できない、学校の授業も前期は無く、家族の面会もできない中で、園外活動、季節感を感じる屋外散歩、制作活動、お誕生会、菜園活動、音楽療法など、やり方を工夫しながら多くの活動を行う事が出来た。

【2 病棟】

1. 利用者を尊重し個別性を高めた支援を行う。

1) 個別支援計画に沿って支援活動ができる

@病院としての明確な長期目標がないことから、利用者の短期目標が設定しにくいいため、将来、何が必要かを見出しにくく例年同様の計画が多くなっている。できる範囲で個別的な活動ができるように努める。

2) 個別の看護計画の立案・実施ができる

@計画の立案に関しては、コロナ禍の中、外に出る活動はできなかったが、院内の 3 大行事に合わせて日々の活動に連動させ実施することができた。次年度も同様にコロナ対策の元、より創意工夫し活動を実施することに努める。

2. 利用者・家族のニーズに沿った看護・療育環境を整える。

1) 前年度同様(延べ日数 400 日)のショート受け入れができる

@今年度は、コロナ禍の元、利用・受け入れを自粛したことから、延べ日数は、153 日(2021 年 1 月 22 日現在)と前年度の半分以下になっているが、感染対策を実施しながら、受け入れ可能な範囲での対応はで

きた。次年度も状況を観ながら受け入れを実施していく。

3) 活動や行事に職員全員参画し、ニーズに応えることができる

@コロナ禍の元、外部へのイベント依頼はせず、家族も呼ぶことができない中、密を避け、日常の活動と連動させ、より個別に時間をかけて関わることを意識し実施することができた。そのため、多くの職員が関わることもできた。

4) 利用者の安全確保のため、体調管理を行い、感染を持ち込まない

@近隣の施設や県内、職員の家族の周辺ではコロナ陽性者がでていっているものの、職員の陽性者ははず(2021年1月22日現在)、またインフルエンザに関しても0件で持ち込みを阻止し感染対策ができていっている。また、3大行事も規模を縮小し、無理に外での開催をしなかったことで、体調不良となる利用者は殆どみられなかった。

3. 職員のレベルアップによる質の向上ができる

1) 院内の目標に沿った年間目標の立案・実施ができる

@病院の目標に沿ってそれぞれが立案したが、新型コロナウイルスの感染拡大により、院内の感染対策など、日々の安全対策に優先順位を切り替えたことで、個々の目標に対する実施ができなかった。

2) 研修(院内・院外)に一人1回以上参加できる

@新型コロナウイルスの感染拡大にて、軒並み研修は中止されたため、院内外での研修は殆ど参加できなかった。オンラインでの研修会が徐々に開催されてきていることから今後は方向転換し参加していくことを目指す。また、院内においても身体拘束のDVDの閲覧、感染DVDの閲覧を実施したように、できる範囲での研修を実施開催し参加をしていく。

4. 適切な病棟運営を図る。

1) SPDを調整し物品の整理ができる

@ようやく中トイレの倉庫化がなされ、物品整理を少しずつ進めるようになった。オムツや洗剤類も倉庫へ保管できることから、病棟内のその他の物品も整理できた。医療材料に関しても2階のSPDと1階のSPDとの分離を図り整理は引き続き進めていく。

3) オムツに関してコスト意識を持つことができる

@コストに関しては、病院の方針が決まりしだい実施の方向を考えている。現状家族会等へオムツの料金に関しては交渉中のため、状況を報告し少しずつ意識していくよう働きかけている。次年度は他の物品等に関して目標設定し、コストに関する意識をさらに高めるよう努める。

薬剤課

【 業務内容 】

- ・ 定期薬の調剤、監査、定期薬カートへのセット
- ・ 臨時薬の調剤、監査、払い出し
- ・ 処方箋疑義照会
- ・ 定期処方箋発行業務の医師の代行
- ・ 短期入所の薬の確認、セット

- ・ 外泊時持参薬の用意
- ・ 医薬品情報の収集
- ・ 医薬品管理（在庫の確認、発注、返品、期限の確認、病棟ストック薬の見直し）
- ・ 棚卸し
- ・ 在庫額の集計
- ・ 期限切れ薬品の集計、廃棄、インフォメーション
- ・ 感染サーベイランスの作成
- ・ 医療監査項目の整備
- ・ 医薬品業務手順更新
- ・ 外部研修会への参加（ウェブでの参加）
- ・ メーカーによる医薬品説明会の調整（コロナ現在はコロナ対策にてウェブにて情報収集）
- ・ 院内勉強会の開催
- ・ 医薬品コストのインフォメーション

【 参加委員会 】

感染対策委員会

月 1 回開催される

医師、看護師、療育、訓練課、栄養課、事務各課の代表と薬剤師により構成される。

活動内容は以下の通りである。

園長作成の感染症レポートにて院内感染の発生動向を早期に把握し、利用者及び職員への伝播を最小限にいくとめる。

院内における感染防止マニュアルの作成及び改定を委員会の協議のもと行う。

今年度は新型コロナ感染対策マニュアルを作成。

医師（園長）による勉強会も開催時に行われ、職員全体でのスキルアップを図る。

また、感染症発生時は園長の召集による臨時感染対策委員会が開かれ対策の検討を行う。

ICT ラウンドは月 1 回医師、看護部長、薬剤師が行う。

病棟、外来での感染対策が継続して行われているかを項目別に確認する。

今年度はコロナ対策に重点を置いている。

【 最後に 】

常勤 1 名の薬剤師業務であるが、非常勤薬剤師間での情報伝達を密に行い大きなトラブルもなく無事終えることができた。

病棟看護師との薬剤ダブルチェック機能にも助けられ、ヒヤリ・ハットを最小限に抑えることができた 1 年であった。

今後も薬剤師・看護師及び多職種間での連携を深め、調剤過誤の無いよう日々勤務しなければならない。

また、医師・看護スタッフ等から多大な協力を得たのは感謝すべき重大事項である。

引き続きほかの医療スタッフと連携を深め、利用者さんを第一に考えた調剤業務を行っていきたい。

2020年4月～2021年3月 処方箋枚数、剤数

		外 来			入院(臨時)		入院(定期)		入院(臨時)	
		剤数	枚数	注射(枚)	剤数	枚数	剤数	枚数	注射(枚)	
2020年	4月	48	24	3	314	251	2515	350	25	
	5月	33	16	0	170	150	2012	280	14	
	6月	24	12	0	164	137	2515	350	25	
	7月	26	11	0	150	139	2012	280	16	
	8月	52	18	1	183	158	2515	350	29	
	9月	32	12	0	138	167	2013	280	15	
	10月	23	11	0	134	116	2012	280	9	
	11月	36	14	0	137	163	2515	350	23	
	12月	29	17	1	175	145	2012	280	25	
	2021年	1月	43	26	0	177	148	2013	280	8
		2月	39	20	0	205	192	2012	280	29
		3月	16	18	1	142	131	2515	350	21
合計		401	199	0	2089	1897	26661	3710	239	
	AVE. (Month)	33	17	0	174	158	2222	309	20	
	AVE. (Day)	1.6	0.8	0.0	8.4	7.6	106.6	14.8	1.0	

栄養課

食事提供において、昨年度に引き続き大きな事故もなく無事に終わることができた。厨房においては、厨房責任者の変更等があったが、人員体制及び運営については安定的に行われてきたと考える。

施設側においては、昨年度2月によりパート栄養士の退職に伴い、1名体制での対応を行ってきた。分担してきた業務の内容を精査し、大きな混乱なく遂行できたのではないかと思う。

<反省・評価>

昨年度からの引継ぎとして大阪樟蔭女子大学との共同研究、手塚山大学、近畿大学の臨地実習の受け入れ等を計画していたが、新型コロナウイルスによる影響を受け、共同研究については、年度当初は、メール等でのやり取りを行ってきたが、実際の研究については、参画することができなかった。また、臨地実習については、受け入れを中止せざるを得ない状況にあり、実施することができなかった。共同研究及び臨地実習の受け入れについては、栄養課及び厨房のよい刺激となっており、新年度への再開を目指したいと考えている。

食事形態に対する課題について、一昨年度より取り組みを行っており、厨房での調整を進めてきたが、厨房責任者の交代及び、安定運営に尽力したため、実施が遅れた。2020年度中の導入はいったん保留にし、2021年度に向けての導入を進めていきたい。

栄養評価及びNSTの運営については、継続して実施できているが、利用者様においても年齢に伴う様々な変容がみられるため、今後もそれぞれの課題を見つけ、検討を重ねていきたい。

また、経管栄養の利用者様が増加したことによる、栄養剤の変更及び配膳方法を検討してきた。コロナ禍における、感染症リスクも加味しバッグタイプの栄養剤へのスムーズな移行と配膳方法の変更を実施することができた。

栄養課の人員体制については、前年度2月のパート栄養士の退職に伴い、1名体制となっている。2名体制の時から、業務の効率化等については見直してきていたが、業務量はやや多くなっているのが現状である。これまで以上の計画的な業務管理が必要となる。今年度は新型コロナウイルス感染症による影響もあり、長期目標の1年目であったが、体制整備を行うことはできなかった。来年度、再考し実施を検討していきたい。

給食管理において、委託会社とも連携を密に安全な食事提供を継続していくことが課題となる。

<令和3年度の目標・課題>

- ・食事形態及びゼリー食の課題解決に向けた取り組みの継続
- ・安心・安全な食事の提供
- ・栄養(再)評価及びNST運営の継続 等

給食委員会

委員会メンバー：医師・看護師長・療育主任・言語聴覚士・調理師または栄養士・管理栄養士

内容： 利用者の『食』に付随する事を、それぞれの専門知識を有する病棟スタッフと協議する委員会。

毎月1回実施。栄養課と病棟スタッフや他の専門職との意志疎通や連携を図る重要な機会である。

参加メンバーが各病棟の管理職が担うことにより、スムーズな話し合いを行うことができる。

【2020年度の主な取り組み】

- ・食事関連のヒヤリハット事例の報告
- ・配膳時間など病棟と厨房との業務調整
- ・食事評価の報告の場
- ・病棟お誕生日会、クッキングの実施方法
- ・感染症発症時の食事対応の確認
- ・訓練課茶話会の開催日程確認
- ・行事食の報告及び提案

【2020年度まとめ】

前年に引き続き、管理職を交えた委員会構成で毎月開催。味見食や聞取りによる嗜好調査をとおり、日常的に食事に対する意見をとりまとめることにより、きめ細かい対応ができたと考える。参加している各管理職の協力もあり、日々の給食提供や行事等の対応もスムーズに行うことができた。

厨房委託業者には毎回参加してもらうことにより、お互いの信頼関係を築くと共に、積極的な意見交換が出来たと感じる。次年度も引き続き、積極的な意見交換を行いより良い給食の提供に努めたい。

【次年度予定】

次年度も引き続き同じ形式で運営される。

2020年度 行事及び時節献立一覧表

開催月	日付	項目	主な内容
4月	複数日	春メニュー	春野菜を使った献立、いちご
5月	5月5日	こどもの日	鯉のぼりケーキ
6月	複数日	夏メニュー	冷やし中華、夏野菜カレー
7月	7月7日	七夕	七夕そうめん、蒸しシウマイ、スイカ、七夕カルピスサイダーゼリー
	7月14日	夏フェスメニュー	金魚ゼリー(きゅうりとトマトのゼリー)
	7月27日		焼き鳥風、たこ焼き、ショコラバナナムース
8月	複数日	夏メニュー	夏野菜料理
9月	複数日	秋メニュー	サンマの照り焼き、さつま芋ご飯、
10月	10月27日	秋祭り	かぼちゃプリン
	複数日	秋メニュー	サンマの生姜煮、栗ご飯他
11月	複数日	秋メニュー	きのこカレー、茶碗蒸し、秋野菜料理
12月	12月19日	クリスマス会	チョコムースケーキ
	12月25日	クリスマス	煮込みハンバーグ、マカロニグラタン、コンソメスープ、苺ケーキ
	12月31日	大晦日	年越しそば、かき揚げ
	複数日	冬メニュー	白菜と鶏肉の寄せ鍋風煮、冬野菜料理
1月	1月1日	お正月	赤飯、おせち、祝肴、雑煮、栗のムース黒豆ソース添え
	1月7日	七草	七草がゆ
	複数日	冬メニュー	寄せ鍋風煮、冬野菜料理
2月	2月3日	節分	恵方巻き、イワシのつみれあんかけ、すまし汁、豆乳プリン黒蜜ソースがけ
3月	3月3日	ひな祭り	春の散らし寿司、冬瓜の炊き合わせ、すまし汁、ひなまつりようかん
	複数日	春メニュー	春野菜料理

※ 毎月誕生日会に手作りケーキ、注入者へはジュース提供

七夕

院内約束手事箋及び行事食写真

手作りおやつシリーズ

一般食

食種	熱量 kcal
常食 A	1500
B	2000
全粥食	1380
ペースト食	1190
流動食	770
低カロリー食	1200

特別治療食

食種	熱量 kcal
脂質異常食	1400
低脂肪食	1572

正月(おせち)



ふつう食 きざみ食



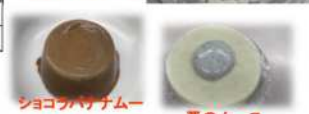
鯉のぼりケーキ



南瓜プリン



クリスマスケーキ



ショコラバナナムース

栗のムース



金魚ゼリー

七夕ゼリー



ふつう食

きざみ食

押しつぶし食

ゼリー食

子どもの日



ひなまつりようかん

ふつう食

きざみ食・押しつぶし

ゼリー食



豆乳プリン 黒蜜ソースがけ(節)

押しつぶし食

ゼリー食

訓練課

常勤セラピスト各々がオンラインにて、自己研鑽することができた。また、利用者についての情報共有を行うことができた。

新型コロナウイルス対策としては、訓練室の温度・湿度管理や、訓練時に使用する物品を共用しない事、訓練室の清掃・消毒、物品の洗濯などを行った。感染対策により病棟で訓練を行う事で、病棟での利用者の様子や装具の使用状況を直接確認する事が出来るようになり、病棟スタッフからの相談も増えた。この1年感染対策の中、1F班・2F班に分かれての動きであったため、対応が少し遅れてしまうようなことがあったが、この経験を活かし次年度には早急な対応ができるよう、これまで以上に他職種との連絡をこまめに行い情報収集に努めるよう気を付けたい。

PT

PTの個別訓練では、利用者1人ずつの運動・姿勢面での問題点の把握や性格的特性、生活リズムの理解を行い、その上で治療プログラムを計画し、実行している。訓練内容としては、脊柱側彎や関節の変形・拘縮の進行防止・改善、呼吸機能や現在の移動能力の維持・改善を目的に、関節可動域訓練、ボイタ法、上田法、呼吸リハビリテーション、筋力増強、マッサージ、動作訓練を行っている。

病棟では、整形の澤井医師からの要請もあり、病棟スタッフや保護者の協力により、利用者のポジショニングの見直しや検討を行う事が出来た。

整形関連業務では、装具関連業者の訪問に立ち会う機会が増え、利用者が使用する座位保持装置や装具の不具合にさらに注意を払うようになり、すぐに各担当と相談出来るようになった。仮合せの際には、クッションや座面、テーブルの評価もOTと協力して行えた。また各種装具に関しても、常に澤井医師や病棟スタッフと相談し、保護者とも電話などで連絡を取りながら、利用者に最適な装具の検討を行う事が出来たと考えている。

また体調不良などで他院に転院された利用者には、帰園後の全身評価を行い、多職種とのカンファレンスの機会を持ち、食事姿勢や離床時間、装具装着時間、褥瘡の除圧など、その後の病棟での生活に活かす事が出来たと感じている。

自己研鑽の機会としては、オンライン開催となった全国重症心身障害児者施設職員研修会に参加し、リハビリ職種としての感染対策の情報を収集出来た。

非常勤の下浦先生の指導の元、ボイタ法のみではなく、ボバース法、徒手療法や上田法など、幅広い手技の指導をして頂くとともに、利用者のより良い評価・問題点抽出・治療方法が明確になり、日常の業務に活かされている。

OT

利用者への理解を深めるために、OT内で症例の検討を行うことができた。引き続き、利用者への理解を深めていきたい。

クッキングなどのグループ訓練は、新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった。しかし、2階病棟とOT合同で行う絵画グループについては、屋外で行うなどの感染予防対策を行い、数回実施できた。また、園芸は、個別訓練として実施し、ひまわりやチューリップなどを植える作業を各利用者が持つ能力や特性を活かすことができた。個別訓練では、訓練として取り組む絵画において、完成した作品を作品展へ応募した。作品展への応募者数、出展数ともに過去最多となった。

夏季にはPTと協力して、感染対策を行いながら、プールでの個別水中運動療法を行う事ができた。また、PTと合同で行っている月2回の症例検討会は、一時中断もあったが、1階と2階の2班に分かれて、継続して

行うことができている。

ST

訓練において能動的に取り組むことを目標に、すべてを介助で行うのではなく、部分的に利用者の動きを引き出したり、少しの介助で誘導するなどの機会を増やすことで、成功体験や自分自身の動きに気付けるように関わってきた。

自助具に関しても、利用者の状態に合わせて病棟担当者や保護者と相談し、適宜提案や変更を行ってきた。特別支援学校とも感染に気を付けながら、お互いの様子を見学させてもらったり、それぞれに合わせて授業内容を検討したりと、必要に応じて関わりを継続することができた。

地域支援

短期入所

新型コロナウイルスの感染流行を受け、短期入所利用にも制限をかけた一年であった。

制限の内容としては以下の通りである。

- ① 緊急性の高い方（家庭の事情なども考慮）の優先利用。
- ② 病棟分離による部屋数調整の為、短期入所床数の減少（3床から2床に）。
- ③ 完全個室対応（入所者との接触は不可とする）。
- ④ 感染部屋確保の為、急な利用停止となる可能性がある。
- ⑤ 利用二週間前の健康チェックシート記入。
- ⑥ 入退所時の消毒作業。
- ⑦ 新規利用の制限

などを利用者様にはご理解していただいた上で利用いただく。

その影響も大きくあり、利用数は前年度と比べて半数以上減少した。（下記グラフ参照）

合計件数は令和元年度 729 件・令和 2 年度 328 件となっている。

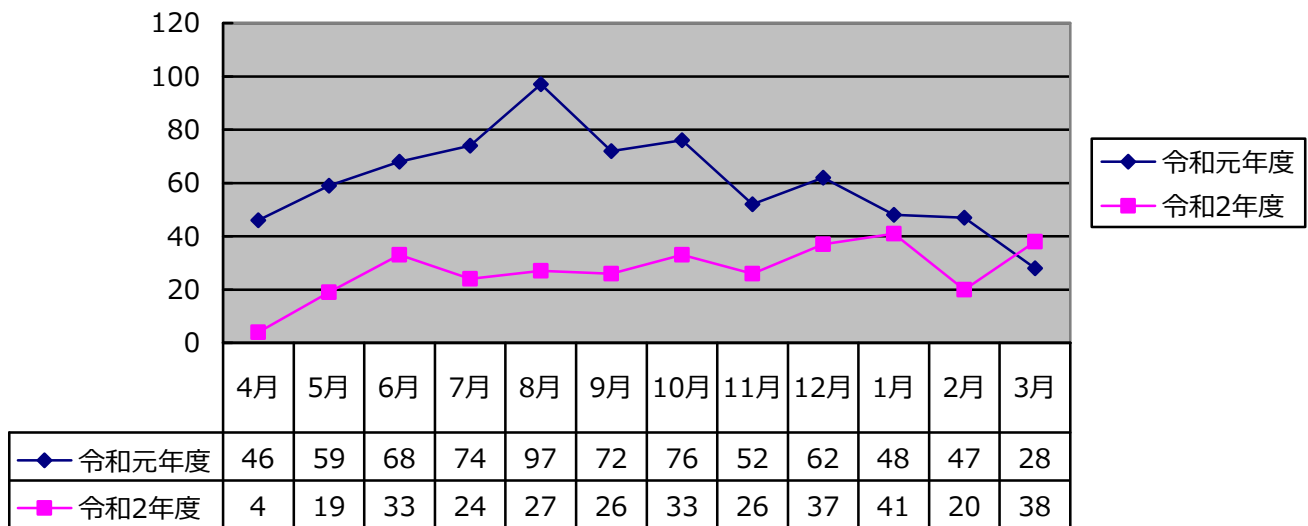
緊急事態宣言時には予約されていた方も利用を辞退される方がほとんどであった。以降の利用については例年よりも低水準で推移した。

利用のケースとしては、ひとり親世帯の介護負担軽減や、家族の病気や入院、家族の冠婚葬祭などに加え、本人がバルツァを忘れてしまう恐れがあるといったケースも見られた。

登録されている方からの問い合わせ等は想定より少なく、一年以上利用が空いている方も少なくない為、障害の進行や病状の変化や家庭の状況変化などが無いか、ニーズの把握も今後重要になってくるのではないかと感じる。

また、利用前に施設内で発熱が多発し（コロナ陰性）部屋の確保が難しくなるなどしてお断りをさせていただくケースも一件発生した。

新規利用に関しては、積極的には行っていないが、家庭の事情等を考慮して 1 件新規登録で利用を開始した方がおられた。



相談支援

令和2年4月より特定相談支援事業所を再開する運びとなる。それに伴い、外部事業所と契約している利用者様ご家族へ意向を聞き取ったうえで、計画相談事業契約を改めて結ばせてもらう事となる。元々他事業所とも、事業が再開したら戻すという約束で進めていたところがほとんどであったようだ。

利用者様にとっては他事業所からの目が入る事で、権利擁護の視点から施設と外部をつなぐ役目になるのではないかと考えていたが、実際に重心の方の計画を立てた事が無い、重心の方を支援した事、見た事などの経験がないからどうしたらいいかわからない、戻せるのであればすぐに戻してほしいなどの意見も事業者側から数件声があった。

結果としてはほとんどの利用者様ご家族がバルツァ・ゴードルでの計画作成を希望され、改めて契約を行った件数としては59件中49件となる。

地域の利用については3件利用があり、1件が療養介護施設利用中の方で新規計画相談の利用、2件はもと前任者が担当する予定だった地域で暮らす方を引き継ぐ形で利用を開始した。

地域移行を将来に見据えた利用者様もおり、今後地域の資源把握や事業所とのつながりを一層強めていく必要がある。

令和2年度 地域支援 目標

① 特定計画相談事業のサービスの充実

目的：特定計画相談利用者に対して計画を通じてより良い環境を提供する

- ・県内における資源の把握や情報交換を行い、サービス等利用計画に反映する。
- ・自立支援協議会等の研修や、圏域で開催される事例検討会への参加。
- ・他事業所との連携を深めるための関係性を築き、サービス担当者会議の場を年間通じて定期的に行う。

② 意思決定支援・アドバンスケアプランニングの検討

目的：利用者及び家族の高齢化が進む。潜在的に将来への不安を覚えている家族がいる事も面談などを通して感じるため、施設としての意思決定支援方法の確立をしていく必要がある。

研修参加・他施設の実践例などを学ぶ事を積極的に行い、施設における実施方法などを多職種と検討していく

意思決定支援を行う上での職員及び家族への啓蒙活動を行う

③ 入所調整会議の定期開催

入所希望者・短期入所利用希望者の情報共有を施設内において定期的に行える場を設ける

防災訓練実施報告

防災訓練実施報告

2020年度	回数	参加人数	実施日
避難訓練	13	137	4/2.4/21.5/19.7/21.8/18.9/15.10/20.11/17.12/15.1/19.2/16.3/16
通報訓練	12	131	4/2.4/21.5/19.8/18.9/15.10/20.11/17.12/15.1/19.2/16.3/16
消火訓練	12	131	4/2.4/21.5/19.8/18.9/15.10/20.11/17.12/15.1/19.2/16.3/16
防災訓練	7	76	4/2.4/21.5/19.8/18.
防犯訓練	2	10	4/2・4/21

- 2020年5月22日業者による消防点検
- 2020年11月20日業者による消防点検

- 2020年4月～12月 LED交換・エアコン室内機・室外機更新工事 10月～11月順次部分的に空調とまる。
- 2020年 1月ウォシュレット便座交換工事 1階・2階・地下の一部バルブで2時間断水

訓練状況 : 新型コロナ感染予防の為病棟分離・全体訓練は各課に分かれての机上訓練になった。アクションカード作成を目指した。

実施日	内容	人数	種別
2020.4.2	新入職員対象消防設備、避難経路オリエンテーション	5	避・通報・消火・防災・防犯
2020.4.21	避難経路・消防設備確認 防災委員オリエンテーション	5	避・通報・消火・防災・防犯
2020.5.19	2017年の垂直避難の状況・配置アンケートの見直し	4	避・通報・消火・防災
2020.6.16	消防設備・避難経路点検確認・酸素の優先順序・垂直避難	6	避・通報・消火・防災
2020.7.21	垂直避難の役割・動きをホワイトボードで机上訓練	6	防災
2020.8.18	通信（トヨクモ安否システム）・水消火器・避難経路点検	6	避・通報・消火・防災
2020.9.15	火災ホワイトボードで机上訓練 1階・2階とテーブルを分けてアクションカード作成	7	避・通報・消火
2020.10.20	新型コロナ予防対応：消防設備・避難経路テスト・火災アクションボード・アクションカード・書類配布	6	避・通報・消火
2020.11.17	消防設備テスト答え合わせ・消火・通報・避難誘導アクションカード作成	6	避・通報・消火
2020.12.15	アクションカード使用して土曜日勤・夜勤帯の通報・消火避難誘導訓練について意見交換	6	避・通報・消火
2021.1.19	アクションカード（初動15分間の動き）の使用方法を各課で掲示。説明し周知する。	50	避・通報・消火・防災
2021.2.16	各課でアクションカードを使用し、机上で消火・通報・避難準備・避難誘導する。	15	避・通報・消火
2021.3.16	各課でアクションカードを使用し、机上で早朝5時想定で消火・通報・避難準備・避難誘導する。	15	避・通報・消火

137

令和元年災害

- 2019.7.27 13:00～15:40 大雨洪水注意報 納涼祭決行
- 2019.8.14 15:00～15:30 臨時防災委員会
- 2019.8.19 大雨警報・洪水警報 16:50～19:00 (防災ラジオより)
- 2019.8.31 鹿野園町地区・岩井川地すべり
- 9.9～9.10 東海地方大規模停電・(奈良影響なし)
- 2019.10.12 3:00 暴風警報4:00 暴風警報・大雨注意報 (東海地方水害)
6:00 大雨警報・暴風警報 7:50警戒レベル3 10:00警戒レベル4

令和2年近隣災害

- 2020.7.13 鹿野園地区岩井川に地盤崩落 民家2棟 83cm地盤崩落西に10m以上移動
土砂ダムが形成される危険性が高い 該当地区住民に避難勧告避難
- 2020.12.28 12/30～31日かけて最大寒波 積雪対策する。

2020/8/より トヨタモーターサービス登録 以下安否サービスより通信

2020.10.10 17:00 三宅山：大雨特別警報
 2020.12.12 16:19 岩手県沖（北緯40.1度・東径142.2度 深さ50km）最大震度：震度5弱
 2020.12.18 18:20 18:09ころ地震 伊豆大島近海（北緯34.6度 東径139.3度 ごく浅い）最大震度5弱
 2020.11.22 19:17 19:06ころ地震 茨城県沖（北緯36.6度 東径141.1度 深さ40km）最大震度5弱
 2020.12.21 02:35 02:23ころ地震 青森県東方沖（北緯40.7度 東径142.7度 深さ10km）最大震度5弱
 2021.2.13 23:18 23:08ころ地震 福島県沖（北緯37.7度 東径141.8度 深さ60km）最大震度6強
 2021.3.15 00:36 00:26ころ地震 和歌山県北部（北緯34.0度 東径135.2度 深さ10km）最大震度5弱
 2021.3.20 18:21 18:09ころ地震 宮城県沖（北緯38.4度 東径141.7度 深さ60km）最大震度5強
 公益財団 日本重症心身障害福祉協会より一斉メール：
 2021年2月13日23:08 発生の福島沖地震 震度6強・5強・5弱：福島県・宮城県 震度5強5弱：茨城県、栃木県 震度4 関東
 「2021.2.13（23:08）福島沖地震（震度6強）被害状況」用紙付き

寄付・助成金等

事業名	名称	金額	適用
ボランティア活動支援事業	政策医療振興財団	80,000円	電話交換機用3時間電池
寄付金	森田記念福祉財団	1,000,000円	感染用医療材料
イオンギフトカード	イオンイエローレシート	98,600円	活動備品
施設整備費補助	奈良県	88,275,000円	空調・LED等設備更新
保育環境改善等事業費補助	奈良市	500,000円	クリーンパーテーション
ICT導入事業補助	奈良県	1,000,000円	Wi-Fi環境整備等
コロナ感染症緊急包括支援事業	奈良県	3,873,000円	酸素配管増設等
医療機関等感染拡大防止支援事業	奈良県	6,400,000円	感染対策
寄付金	家族会	1,200,000円	感染対策物品
寄付金	大阪淡路ライオンズクラブ	300,000円	感染対策物品
医療従事者等慰労 奈良市プレミアム商品券交付事業	奈良市	1,160,000円	10,000/人